

ワールドワイド携帯電話四半期動向

2009年5月1日報告

2009年1Q(1-3月)調査結果 目次

1	2009年1Q(2009年1-3月)結果の要約	3	6.1.	2009年1Q(1-3月)需要動向	21
2	地域別累積加入推移(四半期別)	6	6.2.	地域別販売動向	25
2.1.	中国 インド、ブラジル加入推移	9	6.3.	2009年方式別、メーカー別需要量予測	26
3	方式別加入推移(四半期別)	11	7	Nokiaの2009年1Q動向	28
4	2009年加入者予測	14	8	Motorolaの2009年1Q動向	32
4.1.	地域別	14	9	Sony Ericssonの2009年1Q動向	34
4.2.	方式別	15	10	Samsungの2009年1Q動向	36
5	主要オペレータ加入者数推移	16	11	LGの2009年1Q動向	41
5.1.	アジア	16	12	5社以外の2009年1Q動向	46
5.2.	西欧	17	12.1.	Research in Motion	46
5.3.	東欧	18	12.2.	Apple	46
5.4.	北米	19	12.3.	日本メーカー	47
5.5.	中南米	19	12.4.	その他	48
5.6.	中東/アフリカ	20	13	部品需給動向	49
5.7.	主要オペレータ加入者数推移の世界全体に占める推定比率	20	14	端末各社の出荷計画	50
6	端末需要動向推移	21	15	製品在庫状況	51

2009年1Qの世界の携帯電話市場概況

加入者数推移

例年1-3月期の新規加入件数は前期10-12月に対し10%前後落ち込む傾向をもつが、2009年1Qは前期比2%減と微減に留まった。1Qでの予想外の新規加入件数は、前期4Qで金融不安から新規加入が鈍化した影響もあるが、むしろ中国、インドにおける加入急増がワールドワイドの新規加入水準を下支えした。

端末需要

1Qの端末需要は新規加入の予想外の伸びと、成熟国の端末買い控えから買い替え率は前期を大きく下回った。端末メーカーは消費の低迷を見越し端末出荷を抑制したため、4Qに引き続き出荷量は需要量を下回った公算が高い。その結果、社内在庫、流通端末在庫は前期末に対し、さらに改善が進んだものとみられる。

2Qは需要、出荷とも1Qを上回る見通しである。Nokia、Samsung、LGは1Qの出荷/需要水準を上回る公算が高い。特にNokiaは2QでNシリーズ初のタッチスクリーンモデルを出荷するため収益面でも改善が予想される。

ただ不安材料として4月末に表面化した新インフルエンザ問題が端末需要に影を落としている。

2003年4月に中国で発生したSARSでは5月に大きく端末販売が落ち込み、端末消費にネガティブな影響を与えた経緯がある。(翌6月には終息し端末販売は急速に回復した)

SARSは中国という局地的な発生であったが、今回の新インフルエンザは世界的レベルのため、影響度は2003年に比べ格段に高いものとみられ、特に発生源の米州では消費の一層の冷え込みが懸念される。新インフルエンザは消費性向に影響を与えるだけでなく、端末生産、部品/製品流通にダメージを与える。SARSでは端末メーカーは中国生産を絞り込み、他国での生産、EMS委託の拡大で対処しており、今回も同様の事態が予想される。

2Qの予測数値は新インフルエンザの広がりを前提にしていいため、仮に新インフルエンザが急速に拡大した場合、予測数値はマイナスに振れる可能性がある。